

高砂青松

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan

Rotary Club



慈愛の種を播きましょう
SOW THE SEEDS OF LOVE

2002～2003年度国際ロータリーのテーマ



するわけですから、手術の様子がよく分かりました。その頃には糸や針が改良され、細い針に髪の毛よりも細い糸がつけてある糸付き針がありました。その針で傷を縫い、その上に白目の上にある結膜という膜で傷を覆うと、細菌の感染もなく、傷も最初からくっつき、次の日には歩いてトイレに行ってもらっていました。昭和60年頃には水晶体を取ったあとに眼内レンズ（人工水晶体）を入れる方法が導入されました。それまで、白内障手術後は老眼鏡よりももっと厚いレンズを入れた眼鏡をかけなければ見えませんでした。この手術方法により、メガネなしでも見えるようになりました。約10年前から人工水晶体を折りたたんで入れる方法が導入されたため、小さな切開で手術が出来るようになり、日帰りで手術が可能となりました。このように医療は進歩してきましたが、この進歩は医療器械の開拓、医療用具の改良、医薬品の進歩のお陰と思っています。

ここで眼科の病気の話をしたと思います。まず白内障ですが、進行しますと、だんだんとかすんで来ます。まぶしい、暗くなると見えにくい、ものが2重3重に見えるといった症状が起こってきます。治療は白内障の進行を遅らせる目薬を使っています。緑内障は2種類あります。急激に起こる場合とゆっくり起こる場合です。急に起こる場合ははげしい目の痛み、吐き気、頭痛がありますのですぐ治療をします。ゆっくり起こる場合は自覚症状がない場合が多く、知らない間に視野が欠けて来ます。緑内障の発見には定期検診の時に眼圧を測ってもらわれるのがいいでしょう。

糖尿病はコントロールが悪いと糖尿病網膜症を起こします。網膜症がかなり進んでも視力は落ちないので発見が遅れます。網膜症にならないためには糖尿病のコントロールが大切です。時間が来ましたので終わります。私の拙い卓話をお聞き下さいましてありがとうございました。

例会記録 (2002. 10. 16 (水)) 通算1183回

ソング 「奉仕の理想」

来訪ロータリ
アン報告(廣瀬) 小嶋幸次様 (高砂R.C.)

出席報告 (川崎) 10月2日 会員数51名 欠席者 1名 出席率 98.08% <修正による>
10月16日 会員数51名 欠席者 16名 出席率 68.63%

委員会報告 ◎ 米山奨学委員会
米山奨学委員会 安さんへの記念品が届いております。横浜の安さんへ送ります。

◎ I.M.委員会 (委員長)
東播第2グループI.M.委員会の構成が決定しました。

プログラム予定

10月16日(水)	10月23日(水)	10月30日(水)	11月6日(水)
卓話 渡辺弥生 会員	卓話 田隅泰三氏 「ローターアクトについて」	卓話 【米山奨学委員会担当】	卓話 榊田純子氏 【R財団委員会担当】

会長 柿木 國夫 幹事 庄司 武 クラブ会報委員長 佐野 栄作
例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (0794) 43-0500(代)

ニコニコ報告

柿木 國夫 …… 秋祭りも好天に恵まれ無事終了。実りの秋、共に頑張りましょう。

渡辺 弥生 …… 本日卓話をさせていただきます。

中右 和宏 …… 結婚記念のお祝ありがとうございます。

志野木 貞夫・井野 隆弘 …… 早退します。悪しからず。

幹事報告

第14回 通算1125回

1. ガバナー事務所より
 - 1) インターアクト次期リーダー講習会の案内
日 時 2002年11月4日(祝)
場 所 日ノ本学園高等学校
 - 2) 地区大会部門別協議会への出席依頼
11月23日(土) 10:00~11:30
 - 3) 地区大会におけるバザー商品提供のお願い
11月15日(金)までに神戸国際大学附属高校 澤北由奈宛
 - 4) 地区指導者育成セミナー開催の案内
11月22日(金) 10:00~
神戸ポートピアホテル南館「大輪田の間」
関係の皆様参加よろしくお祈いします。
2. THE ROTARIAN英語版が届いています。回覧します。
高砂市国際交流協会より国際交流通信が届いています。回覧します。
3. 例会変更
高砂R.C.
11/8(金) → 11/3(日) 親睦家族旅行 鳥取智頭方面
11/15(金) → 職場例会 12:30 神戸製鋼所 高砂製作所
加古川中央R.C.
11/14(木) → 職場例会 12:30 エコファームパークかこがわ
4. 例会終了後I.M.委員長会議を開催します。

会長の時間

当地方の秋祭りも半袖でも汗がにじみ出るほどの晴天に恵まれ、夏さながらの暑さの中、豊作を祈る神事や、屋台の練り合わせ等を無事に事故もなく壮快に終る事が出来た様です。

不況の長期化、暗いニュースが続く中、久しぶりに日本を元気にしてくれた小柴東大名誉教授のノーベル物理学賞受賞で喜びにわく中、一夜あけ今度は島津製作所勤務の43才の若い研究員、田中耕一さんの科学賞受賞の発表、同じ年にノーベル賞のダブル受賞は初めて、田中さんの受賞は若い研究者達にとって、大きな刺激とやる気を多いにかきたてることでしょう。連日の快挙、ダブル受賞を心から喜びたいと思います。

又、昨夜は拉致被害者5人の24年ぶりの帰国で家族との再会した様子を何度もテレビで見ながら故国に帰ってきた5人は言葉少なだったが、その分万感の思いは伝わり、見る度に目頭があつくってしまいました。これを機に、このご家族、又この他の被害者家族への事件解明の糸口になり、良い方向に進む事を心から願います。

本日のプログラム

卓話

渡辺 弥生 会員

私は昭和43年に神戸大学医学部を卒業しました。昭和43年という年は大学紛争の真っ最中で、私達は授業をボイコットし、「インターン制度反対」とデモ行進をしていましたので、6年の最後の方は授業を受けず、あまり勉強をしませんでした。それでも学校側は私達を卒業させない訳にもいかず、3月31日に医学部の端の小さな部屋に全員集められ、卒業証書を頂きました。



従って卒業式はありませんでした。私はその後眼科の医局に入りました。

医学は日進月歩と言いますが、他科でも同じでしょうが、眼科でも私が入った頃と比べると目を見張るような進歩を遂げています。一番多い手術である白内障を例にとりますと、昭和43年の頃の白内障手術は、角膜の周辺を切開し、水晶体を取り出し、そのあと角膜を太い針と糸で3ヵ所縫っていました。角膜の傷が空気に触れているわけですから、患者さんには1週間絶対安静にして頂いて傷が治るのを待っていました。

昭和48年頃には手術用顕微鏡が大学に入ってきました。目を拡大して手術を